

# 令和7年度第2回富士見市いじめのない学校づくり委員会 会議録要旨

【日時】令和7年11月6日（木）14：00～16：00

【開催場所】富士見市中央図書館 集会室

## 【出欠状況】

小林	塚田	森田	山岸	長瀬
○	○	○	○	○

## 【事務局】

学校教育課長 教育相談室長 指導主事1名

## 【次第】

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 報告事項
  - (1) 令和7年度第1回生徒指導に関する調査結果について
  - (2) 令和7年度いじめのない学校づくり子ども会議実施報告
- 4 議 題
  - (1) 富士見市いじめ防止基本方針の改訂について
  - (2) 「いじめの重大事態」への対応について
- 5 事務連絡
  - (1) 第3回会議日程について
- 6 閉 会（副委員長）

## 【報告】

### (1) 令和7年度第1回生徒指導に関する調査結果について

【事務局】 暴力は、小学校37件、中学校20件、いじめの認知は、小学校278件、中学校37件であった。

小学校2~6年と中1の認知件数が多い。

不登校は、小学校47人、中学校125人である。

支援員や相談員、SCなどを活用し、支援にあたっていく。

【委員】 令和2年度に、小学生の暴力行為件数が、中学生を上回った。

コロナ開けは、小・中ともに暴力行為が上昇した。

全国では、自殺者数が増加している。オーバードーズも増えており危険である。攻撃性が、外側ではなく、内側に向いている。

いじめの認知件数については、できる限り発見できた方がよい。

長期欠席の理由の「その他」に分類された件数については、どのような内容かを確認する必要がある。

【委員】 報告にあった、暴力行為が減ったことについて、医療連携が関係しているとはどういうことか。

【事務局】 イムス富士見総合病院との連携により、落ち着いた生活が送れるようになり、暴力行為が減少したケースが見られた。

【委員】 報道を見ると、単純にいじめの件数が増えたように見える。保護者に説明するときは、いじめの定義の移り変わりなど、背景を伝えることも重要である。

【委員】 いじめに関わらず、児童生徒からの訴えがあったときには、必ず聞き取りを行う等の対応をすることが必要である。

【委員】 不登校児童生徒に対して、オンライン授業はやっているのか。

【事務局】 児童生徒の実態に応じて実施している事例はある。

【委員】 オンライン授業を求めてよいということも保護者は知らないのではないか。どの学校もオンライン授業ができるのか。

【事務局】 どの学校でも可能である。

**【委 員】** その他の取組として、顔を出さなくともよいことから、不登校の子には、メタバースという取組も進んでいる。

(2) 令和7年度いじめのない学校づくり子ども会議実施報告

**【事務局】** 「まわりで起きるいじめをなくすためにできること」を中心に話し合った。今後は、会議を受けて、学校での実践に取り組んでいく。

**【委 員】** 当日の様子を参観して、子どもたちが自分のこととして、当事者意識をもって受け止めている印象を受けた。

**【委 員】** 昨年度までの中学校区ごとにオンラインでつなぐ方法ではなく、市内全校の代表児童が一同に会して行ったことにより、他校と価値のある情報交換や協議ができていた。

**【委 員】** 「いじめのない学校づくりこども会議」は、富士見市らしい、とてもよい取組である。

**【議事】**

(1) 「富士見市いじめ防止基本方針」の改訂について

**【事務局】** 被害児童生徒だけでなく、加害児童生徒及びその保護者への支援も大切である。「指導」ではなく「支援」について明示されることで、その後の対応がしやすくなる。

**【委 員】** 相談を受ける中で、被害児童生徒の家庭から、加害児童生徒への指導をしてほしいという要望を受けたことがある。

**【委 員】** 加害児童生徒に対して、その時点において、出来事を丁寧に確認することと、また、時間が経過した後には、「今、どのように感じているか?」という振り返りを行うことが大切である。

**【委 員】** 相談窓口の一覧には、具体的にどの機関が対応するのか、機関名も記載した方がよい。

(2) 「いじめの重大事態」の未然防止に向けた取組について

※本市の取組である、いのちの授業+（プラス）における自尊感情を高めるための手立てについて

【委 員】 「自尊感情」とは、「自己効力感」、「自己有用感」、「自己肯定感」を総合したものである。

【委 員】 係活動やボランティア活動等を通して、他者から「ありがとう」と言わされること、つまり、人の役に立つことで得られる「自己効力感」をもたせることは、学校で取り組みやすい。それが、「自尊感情」の向上に繋がる。

【委 員】 様々な取組を「自己効力感」、「自己有用感」、「自己肯定感」の観点から、整理していくとよいのではないか。

【委 員】 「自尊感情」を高めるためには、できたことを実感させるための「振り返り」も大切である。